

この2つの場所は、鹿児島の歴史と文化を深く知ることができる貴重な場所。特に御楼門は復元されたばかりで、歴史的な価値と共に新しい観光名所として注目されています。黎明館は、鹿児島の過去から現在に至るまでの歴史を網羅的に学ぶことができる場所です。

御楼門（ごろうもん）



【概要】

- ・御楼門は鹿児島城（鶴丸城）の正門として有名です。
- ・江戸時代に建てられたが、明治維新後に焼失しました。
- ・2020年に復元され、現在は観光名所として訪れる人が増えています。

【特徴】

- ・壮大な木造建築で、伝統的な和風建築様式が取り入れられています。
- ・門を通ると、城内の広場や庭園が広がります。
- ・御楼門自体はシンボリックな存在で、歴史的な価値が高いとされています。

黎明館（れいめいかん）



【概要】

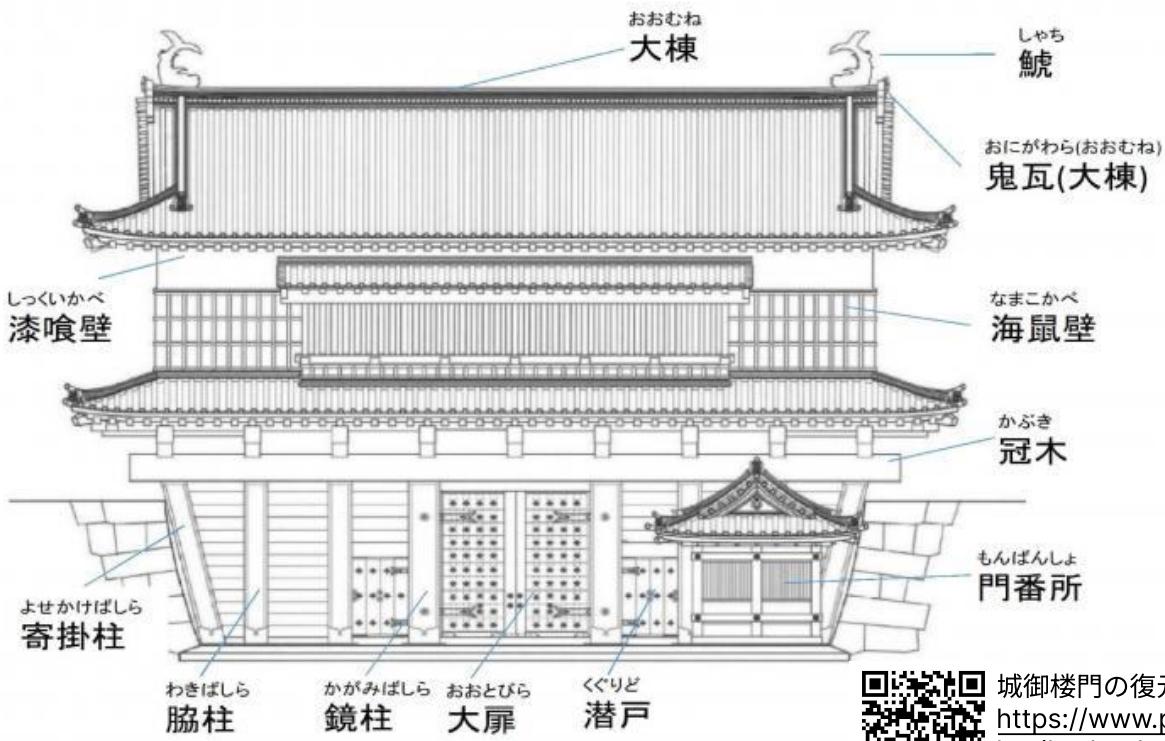
- ・鹿児島県歴史資料センター黎明館は、鹿児島県の歴史や文化を展示する博物館です。
- ・1983年に開館しました。

【展示内容】

- ・薩摩藩の歴史、明治維新の出来事、そして鹿児島の近代史に関する展示があります。
- ・貴重な文書や工芸品、武具などが展示されています。
- ・特別展示や企画展も頻繁に開催されており、訪れるたびに新しい発見があります。

【施設】

- ・常設展示室に加えて、図書館や映像ホールも併設されています。
- ・学芸員による解説ツアーやワークショップも行われており、教育的な要素も充実しています。



城御楼門の復元までの道のり
<https://www.pref.kagoshima.jp/ab10/kyoiku-bunka/bunka/goroumon/michinori.html>

御楼門（ごろうもん）

日本最大の城門とされる「御楼門」は1615年頃には、ほぼ完成していたとされていますが、1696年には鹿児島大火により本丸が消失したという記録があり、1843年には御楼門の立て直しが行われたという記録が残されています。

1696年に鹿児島城下で大火があり、城内に延焼し本丸焼失となり、その後1707年に鹿児島城本丸再建工事が終了し、明治時代を迎えたが、1873年に本丸と共に御楼門は再び火事で焼失してしまいました。

1873年の焼失以降、2020年に再び復元され、147年ぶりに御楼門が再建となりました。復元するにあたって、2014年から御楼門周辺の発掘調査を行い、その調査成果は御楼門の基礎工事や建物の復元・再建に関する重要な情報となったそうです。

復元された御楼門は、入口右手には屋根付き出窓がある「番所」を備え、幅約20m、奥行約7m、高さ約20mで、2階部分には海鼠壁が採用されており、非常に立派で美しい二重二階の「櫓門」となっています。

御楼門はその規模と歴史的価値から、日本最大級の城門の一つとされています。

黎明館（れいめいかん）

明治100年記念事業として昭和58(1983)年に開館した「鹿児島県歴史資料センター黎明館」は、鹿児島の歴史や文化を広く紹介するための施設です。場所は江戸時代の鹿児島城本丸跡にあり、今でも濠や石垣がそのまま残っていて、歴史を感じられる場所となっています。

黎明館の展示はとても多彩で、歴史、考古、民俗、美術・工芸に分かれています。例えば、薩摩藩の歴史や明治維新に関する展示があったり、鹿児島の伝統的な工芸品が見られたりします。また、県内の遺跡から出土した考古資料も展示されていて、地域の古代の歴史を学ぶことができます。

1996年に展示を全面リニューアルして、もっとわかりやすく楽しい展示になり、さらに、2019年には多言語対応もしていて、海外からの観光客にも優しい施設となりました。そして、令和2(2020)年に「鹿児島県歴史・美術センター黎明館」と改称し、令和5(2022)年10月に開館40周年を迎えました。